

## 開会あいさつ

埼玉県保健医療部 副部長 阿部 隆

皆様、こんにちは。

ただいま御紹介いただきました、埼玉県保健医療部副部長の阿部でございます。

本日、ここに「第 11 回埼玉輸血フォーラム」がこのように多くの方の御参加のもと、盛大に開催できましたことは、主催者のひとりとして誠に喜ばしい限りです。

このフォーラムの開催に向けてご尽力いただいた関係者の皆様に、心から感謝いたします。

また、本日御参加の皆様には、日頃から本県の保健医療行政の推進に格別の御理解と御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

現在、新型コロナウイルスに関連した感染症対策ですが、昨日、県内の未就学児童の方が新たに陽性反応ということで、今日の新聞に報道されております。この方は武漢からのチャーター便の第二便で親御さんと一緒に帰国されており、親御さんの方は陽性反応ということで先に結果が出ており、すでに県内の病院に入院されております。この結果を受けて経過観察していましたが、昨日の夕方、陽性反応という結果が出たことで、この方も県内の医療機関に入院しております。特に、感染症指定医療機関や帰国者・接触者外来を設置していただいている協力医療機関の皆様のご尽力には感謝申し上げますところでございます。

県民の方に無用な不安を払散させるのが、最も危惧するところであり、埼玉県知事の「正しく恐れるということが重要だ。」と申しており、県の行政機関といたしましても、感染症防止を目的とした検査体制の強化、それから保健所をはじめといたしました相談体制の強化、医療機関の皆

様の感染防止対策などに全力で尽くしていく所存でございます。

さて、埼玉県の高齢化は全国で最も早いスピードで進んでおります。

団塊の世代が 75 歳以上の後期高齢者に移行する 2025 年には、121 万人に増加すると予想されています。

このような超高齢化社会を迎え、今後医療現場において、血液製剤の需要量の増大に、供給が間に合わない状況になるのではないかと懸念されています。

そこで、県では、将来の献血の担い手となる若年層の献血者を確保するため、中学生を対象とした献血推進ポスターコンクールや小・中・高等学校等を対象とした「血液に関する出前講座」を開催するなど、様々な啓発事業を積極的に展開しています。

特に、教育委員会等の関係機関と連携して、高等学校における校内献血の推進に力を入れております。

高校生のうちに学校で一度でも献血の経験を持っていただければ、その後献血ルームや移動採血車で献血に対するハードルが低くなる傾向があります。

また、昨年度は新たな取組として、若者に人気のユーチューバーを起用した献血体験動画を製作するなど、様々な機会をとらえ、献血の意義や方法を訴えかけています。

その結果、埼玉県では、昨年度 22 万 4 千人を超える方々から尊い献血をいただき、特に高校生献血者数は、平成 24 年度以来 6 年ぶりに増加に

転じました。

引き続き、増大する血液需要に応えるべく、御参加の皆様のご協力をお願いいたします。

一方、安定的に血液製剤を確保するためには、医療機関の皆様による、更なる適正な血液製剤の使用に関する取組みが必要不可欠でございます。

本県では、埼玉医科大学病院の池淵先生を始め、県内の医療従事者の方々に組織される埼玉県合同輸血療法委員会で、輸血用血液製剤の安全で適正な使用について、先進的かつ具体的に御検討、御実践いただいております、大変心強く思っております。

本日のフォーラムでは、この委員会で行われました調査検討に関する報告のほか、パネルディスカッションや教育講演が予定されています。

このフォーラムを通じまして、県内の医療機関における輸血の安全性対策がより一層推進され、血液製剤の適正使用が進むことを期待しております。

今後とも 733 万県民が、必要な時に必要な医療が安心して受けられるよう、御支援、御協力を賜りますようお願いいたします。

結びに、埼玉県合同輸血療法委員会の益々の御発展と本日御参会の皆様のご健勝を祈念申し上げ、私の挨拶とさせていただきます。